

<前回>オリエンテーション

前期：キリスト教と近代的知

後期：方法論的考察と聖書の社会論

オリエンテーション

I：象徴・言語・システム

1. 象徴・言語 1
2. 象徴・言語 2
3. 象徴・言語 3
4. システム・宗教

II：レトリック・メタファー

1. レトリック・メタファー
2. メタファー・モデル
3. イエスの譬え

11/9

11/16

III：コミュニケーション・解釈

1. 伝統と意味の地平
2. 多元性と対話
3. イデオロギーとユートピア

11/30

12/7

12/14

IV：宗教と文化——構造と動態

1/18

I：象徴・言語・システム**1. 象徴・言語 1****2. 象徴・言語 2****3. 象徴・言語 3****4. システムと宗教****II：レトリック・メタファー****1. レトリック・メタファー****(0) 聖書からの具体例（ヨハネ 6:22～59）**

1. イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来るものは決して飢えることがなく、わたしを信じるものは決して渴くことがない。

ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことをつぶやき始め、

42 こう言った。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降って来た』などと言うのか。」

52 それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。

ところで、弟子たちの多くの者はこれを聞いて言った。「実にひどい話だ。だれが、こんな話を聞いていられようか。」

このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなった。

2. 「イエス＝命のパン」：字義通りの意味で理解すると、「人々」と同じ疑問を生じざるを得ない → 解釈の葛藤による意味の生成

(1) 言語の諸レベルにおける隠喩の位置

3. 語—文—テキスト → 語の記号論/ 文の意味論/ テキストの解釈学（リクール）

隠喩は文のレベルの言語現象である。テキストのレベルへ議論を拡張する。

4. 経験—隠喩的象徴的言語（物語）—概念（体系・形而上学）

(2) 旧修辞学から新しい隠喩論へ

1) 伝統的隠喩論とその問題性

5. 古い隠喩論

- (1) 隠喩は比喩、すなわち命名に関わる。
- (2) 隠喩は言葉の字義的意味からの逸脱による命名の延長である。
- (3) 隠喩のこの逸脱の理由は類似である。
- (4) 類似の機能は同じ場所で使用可能であるような言葉の字義的意味から借用された言葉の比喩的意味を代用することを根拠付けることである。
- (5) 代用された意味はいかなる意味論的な革新も含まない、それゆえ、我々は、代用された比喩的意味に対する字義的言葉を回復することによって、隠喩を翻訳することができる。
- (6) 隠喩は革新を認めないのであるから、それは単なる言述の装飾にすぎない。したがって、言述の情動的機能として範疇化することができる。

6. 新しい隠喩論は、隠喩を言葉のレベルにおける意味の逸脱としてではなく、文のレベルにおいて可能になる隠喩表現をめぐる複数の解釈の葛藤（相互作用）から可能になる新しい意味論的な革新の問題として捉える試みである。とくに、隠喩との関わりで伝統的に持ち出されるいわゆる「字義的意味」(literal meaning) という考えは、本質的な問題を含んでいる。

2) 新しい隠喩論の試み

7. レイコフ：「隠喩は詩人だけのものではない。それは日常言語に内在し、生、死、時といった抽象概念を把握するための主要な方法なのである」(レイコフ、1994、62)。とくに科学言語における隠喩論が示すように、隠喩は科学における発見の論理に属している。

「源泉領域から目標領域への写像」(「人生＝旅」「神＝父」「時間＝お金」)

8. 隠喩は、優れて現実の認知・認識(思想と経験の方法・あり方)に関わる問題であり、人間の日常的現実性の中心に位置するのである。
9. リクール：隠喩はそれを使用することによって目標領域のそれまで十分に認知されていなかった構造が顕わにするという機能を有するのであり、それは隠喩の発見的機能に関わる問題である。
10. 「私は命のパンである」：イエスについてのヨセフの息子(肉体と持った人間)とパンという意味の多義性ではなく、イエスをについての二つの解釈・見方の衝突による意味のよじれと、それによって引き起こされる永遠の命をめぐるイエスの出来事についての新しい意味の生成である。こうして、パンとイエスの間に写像が構成され、イエスについての一連の認知が可能になるのである。

(3) 隠喩の指示の二重性と実在の開示

11. 隠喩の指示(Reference/Bedeutung)。隠喩的表現と特徴づけられた宗教言語が、指示を持ちうるのか、あるいはその指示対象とはいかなる実在性を有するのか、という問いは、神学的実在論の最重要問題に他ならない。たとえば、イエスの「神の国の譬え」。

言語の指示とは、記号体系外部とその記号との関係。つまり、指示において問題となるのは、記号が自己完結的な存在ではなく、その外部を有すること。

12. 宗教言語、とくにその隠喩的表現とは？

・指示対象がいわば存在しない、あるいはその存在は重要ではない、という主張。

構造主義、あるいは詩的機能＝自己指示性(ヤコブソン)

ブルトマンの非神話論化：実在への指示から実存的決断の呼びかけへ

神話・世界観 信仰・主体性

S. Ashina

13. 隠喩における指示の二重性（リクール）

隠喩論：隠喩の意味と指示

文・言明・判断・解釈のレベルの言語現象

字義的な解釈と新しい別の解釈との葛藤・相互作用

→ 意味のよじれ、新しい意味の生成

→ 第一度の指示の中断

→ 第二度の指示の生成

→ 隠喩・テキストが開示する世界・実在（テキスト世界）

新しい世界内的な存在の可能性・経験の拡張

17. 第二度の指示の指示対象：実在の日常的イメージの模倣ではなく、実在の新しい解釈・見方の開示であり、前方へと投影され再構成された実在。「神の国」の現実性とは。

・ブルトマン学派における「言葉の出来事」

18. 人間の日常性事態が隠喩的構造を有するとすれば、虚構と現実の二分法も廃棄されねばならなくなる。では、真理の基準とは何か。歴史に対する文学の優位（アリストテレス）。

<まとめ>

・隠喩（レトリック）は、認知の問題である。

自己と世界（との相関性）、そして超越的なもの。

・隠喩は、発見に関わる。新しい隠喩の試みとその成功と失敗。

言語共同体とそこにおける受容。

・隠喩の意味と指示。文のレベルでの意味の緊張 → 第一度の指示の中断と第二度の指示の生成（世界の開示）

隠喩の最初の発見・類似の発見 → 隠喩表現の伝達・類似の発見 → 隠喩の受容

・隠喩（類似関係）—換喩（metonymy、現実世界での隣接関係、空間と時間）

—提喩（synecdoche、意味世界での包含関係、類と種）

↓

これから、人間の基本的な認知構造に関わっているが、特定の宗教を特徴付ける特定の認知構造は存在するか？

ヘブライズムとヘレニズムは、換喩と隠喩の対比と重なるか。ハンデルマン。

・宗教的現実・実在（神の国）とはいかなるものか。

言葉の出来事（Sprachereignis, Wortgeschehen）→ 正典・靈感とは何か。動的靈感説。

<前回・参考文献>

14. 小坂井敏晶『民族という虚構』東京大学出版会、2002年。

15. Susan A. Handelman, *The Slayers of Moses. The Emergence of Rabbinic Interpretation in Modern Literary Theory*, State University of New York Press, 1982.

スーザン・A. ハンデルマン『誰がモーセを殺したのか』法政大学出版局、1987年。

Ora Wiskind Elper and Susan Handelman (ed.), *Torah of the Mothers. Contemporary Jewish Women Read Classical Jewish Texts*, State University of New York Press, 2000.16. James K.A. Smith, *Speech and Theology. Language and the logic of incarnation*, Routledge, 2002.17. Philip Burton, *Language in the Confessions of Augustine*, Oxford U.P., 2007.

18. 武藤慎一『聖書解釈としての詩歌と修辞——シリア教父エフライムとギリシア教父クリュソストモス』教文館、2004年。

2. メタファー・モデル

<隠喩・モデル>

1. 言語世界／心的世界／実在世界（日常性・生活世界など）／宗教言語の指示世界における隠喩、モデルの位置づけ。

経験／隠喩／概念：

記号／意味／指示：

語／隠喩／テキスト：言語の諸階層 1 → 連辞

隠喩／モデル：言語の諸階層 2 → 範列

↓

- ・ syntagm (連辞) <metaphor-narrative> → パロール → 諸要素の結合規則とその構造線的、連鎖的な言述順序。テキストは全体として連辞と見なされる。連辞内の諸要素が、前後の諸要素との関係でそれぞれの価値を獲得する。
- ・ paradigm (範列) <metaphor-model> → ラング
特定の構造によって特徴付けられた体系内の他の諸要素との関係。テキストはこの体系に属する諸要素の部分的な表出。所与の体系に所属する諸要素の集積が範列。

Daniel Patte, *What is Structural Exegesis ?*, Philadelphia, 1976.

2. モデル：隠喩を構成要素として成立する上位の構造体。隠喩から構成されるの範列的秩序。モデルは、根底的隠喩 (root metaphor) を核として、その周りに類似した隠喩を結合している。一定の隠喩表現を核としてその回りに構成された隣接する隠喩群・隠喩群のネットワーク。

(1) 「神のモデル」とは何か？

3. Ricoeur, *Biblical interpretation* (85)

model: scientific language, heuristic device/ instrument of re-description

three sorts of models:

scale models (materially resemble, model boat)

analogical models (structural identities, diagram)

theoretical models

constructing an imaginary object more accessible to description,
seeing things otherwise, we perceive new connection in things, as a lens
for seeing the other, isomorphism between the model and a domain of
application, which grounds the analogical transfer of vocabulary,
metaphor

cf: Lakoff

4. Max Black, *Models and Metaphors. studies in language and philosophy*, New York, 1962.

5. Sallie McFague, *Models of God. Theology for an Ecological, Nuclear Age*, Fortress, 1987.

The essence of metaphorical theology is precisely the refusal to identify human constructions with divine reality. …… To say that God is mother is not to identify God with mother, but to understand God in light of some of the characteristics associated with mothering. …… God is/is not mother, or yet again God as mother. …… the constructive character of metaphor is self-evident. …… All language about God is human construction and as such perforce "misses the mark". (22)

The differences between a metaphor and a model can for our purpose be simply stated: a model is a metaphor with "staying power". A model is a metaphor that has gained sufficient stability and scope so as to present a pattern for relatively comprehensive and

coherent explanation. (34)

6. Tillich: Systematic Theology vol.1 1951

The symbols "life," "spirit," "power," "love," "grace," etc., as applied to God in devotional life are elements of the two symbols of a person-to-person relationship with God, namely, God as Lord and God as Father. Other symbols which have this ego-thou character are represented by these two. Symbols like "King," "Judge," or the "Highest" belong to the symbolic sphere of God as Lord; symbols like "Creator," "Helper," "Savior," belong to the symbolic sphere of God as Father. There is no conflict between these two symbols or symbolic spheres.

They cannot be separated.

The Lord who is not the Father is demonic; the Father who is not the Lord is sentimental. Theology has erred in both directions.

God as Lord and the related symbols express the holy power of God.

the unapproachable majesty of God , the infinite distance between him and the creature, his eternal glory,

"Lord" is a symbol for God's governing of the whole of reality according to the inner telos of creation, the ultimate fulfilment of the creature

"Father" is the symbol for God in so far as he justifies man through grace and accepts him although he is unacceptable. sustaining creativity, directing creativity, holy love as the creative ground of being, of man's being the unity (286f.)

7. root metaphors

Philip Wheelwright, *Metaphor and Reality*, Indiana University Press, 1968.

(2) モデルの複数性と相補性

8. モデルの特性として

①モデルの複数性（まず現象学的に確認・記述され、次に理論的に＜存在論的に＞相互に位置づけられ関連づけられる）

②モデルの複数性→神経験の複数性

モデル・レベルの非排他性・相補性（多様性の承認）と概念レベルの排他性
cf: 人格と非人格（ヒック）

③キリスト教の伝統的な「神のモデル」の複数性と基本的性格（男性モデル）

9. ティリッヒ：神経験の現象学（Dynamics of Faith） / 神学体系の規範(Norm)：

↓

モデルは、伝統において機能する。伝統形成的機能。

The norms of systematic theology which have been effective in church history did not exclude each other in content; they excluded each other in emphasis. (49)

the early Greek church: the liberation of finite man from death and error by the incarnation of immortal life and eternal truth

the Roman church: salvation from guilt and disruption by the actual and sacramental sacrifice of the God-man

modern Protestantism: the picture of the " synoptic " Jesus, representing the personal and social ideal of human existence

recent Protestantism: the prophetic message of the Kingdom of God in the Old and New Testaments (47f.)

Tillich's Theology: the "New Being in Jesus as the Christ"

the most adequate to the present apologetic situation (50)

10. McFague:

The dominance of the patriarchal model excluded the emergence of other models to express the relationship between God and the world.

we must ask whether the Judeo-Christian tradition's triumphalist imaginary for the relationship between God and the world is helpful or harmful. (ix)

this is the claim I would make: that a construction of the Christian faith in the context of a holistic vision and nuclear threat is from our particular perspective and for our particular time relatively better than constructions that ignore these issues. in continuity with the basic Christian paradigm as well as being as appropriate construction of that faith for our time. to think in metaphors and models that support a unified, interdependent understanding of God-world and human-world relationships; and finally, one characterized by the recognition that although all constructive thought is metaphorical and hence necessarily risky, partial, and uncertain, implying an end to dogmatism and absolutism, it is not thereby fantasy, illusion, or play. (27)

metaphorical theology is pluralistic, welcoming many models of God.

no metaphors or models can be reified, petrified, or expanded so as to exclude all others.

hypothetical, tentative, partial, open ended, skeptical, and heuristic tolerant of pluralistic (39)

My answer is twofold. First, although this particular essay will focus on God as mother in order to balance and provide a new context for interpreting God as father, other divine activities will also be imaged in female form, especially those concerned with creation and justice. Second, although mothering is a female activity, it is not feminine; Our tradition has thoroughly analyzed the paternal metaphor, albeit mainly in a patriarchal context. The goal of my work will be to investigate the potential of the maternal model but to do so in a fashion that will provide an alternative interpretive context for the paternal model -- a parental one. (100)

cf: Rosemary Radford Ruether, *Sexism and God-Talk. Toward a Feminist Theology*, Boston, 1983.

11. Jürgen Moltmann, *Der Geist des Lebens. Eine ganzheitliche Pneumatologie*, München, 1991.

(3) 「神のモデル」の選択・適切性の基準

12. ティリッヒの「相関の方法」:

「状況ーメッセージ」「問いー答え」(コミュニケーション・フィールド)

現在と過去・伝統の両極

↓

状況適合性と自己同一性という二つの課題:

①その時代の宗教的問いに適合したものであること

②また同時にキリスト教の伝統との連続性を満たし得るものであること

↓

モデルの適切性の基準

現代の歴史的思想的状況にふさわしいキリスト教的モデルとは何か。

エコ・フェミニズム (マクフェイグ、リューサー)

（４）：現代神学の状況と「神のモデル」の選択

13. McFague

The question we must ask is not whether one is true and the other false, but which one is a better portrait of Christian faith for our day. (xiii)

The Monarchical Model: God as Lord and King of the Universe/Omnipotence/Sovereignty

This imaginative picture is prevalent in mainstream Christianity

a pattern of "asymmetrical dualism" between God and the world

The model's anthropocentrism (63)

metaphor or model: not description, as-if fashion about the God-world relationship,

Since both metaphors are inadequate, we have to ask which one is better in our time, and to qualify it with other metaphors and models. (70)

14. <状況> → 現代の要求する新しい感受性(the new sensibility) (16)

A Holistic View of Reality/Responsibility for nuclear knowledge/
consciousness of the constructive character of all human activities)

15. <聖書・伝統との連続性>

キリスト教神学の源泉：「イエスの物語」(the story of Jesus)

16. a destabilizing, inclusive, nonhierarchical vision

17. a pattern of orientation, disorientation, and reorientation

18. Tillich, *Systematic Theology*. vol.3, 1963.

The spirit of Judaism with its exclusively male symbolism prevailed in the Reformation. Without doubt, this was one of the reasons for the great successes of the Counter Reformation over against the originally victorious Reformation.

The first is related to the concept "ground of being" which is -- as previously discussed -- partly conceptual, partly symbolical. In so far as it is symbolical, it points to the mother-quality of giving birth, carrying, and embracing, and, at the same time, of calling back, resisting independence of the created, and swallowing it.

It is the ecstatic character of the Spiritual Presence which transcends the alternative of male and female symbolism in the experience of the Spirit. (293f.)

（５）解釈から倫理へ

19. McFague

20. Ricoeur (d)

they say more than any rational theology. (243)

We are first disoriented before being reoriented. (244)

To listen to the Parables of Jesus, it seems to me, is to let one's imagination be opened to the new possibilities disclosed by the extravagance of these short dramas. If we look at the Parables as at a word addressed to our imagination rather than to our will, we shall not be tempted to reduce them to mere didactic devices, to moralizing allegories. We will let their poetic power display itself within us.

And it is in the heart of our imagination that we let the Event happen, before we may convert our heart and tighten our will. (245)

↓

想像力・構想力（出来事）から倫理へ。宗教哲学の可能性。
構想力とは人間存在の全体性の基礎をなす。

カント、ハイデッガー、ティリッヒ、波多野、リクール、マクフェイグ、シュヴァイカー。

<参考文献>

0. 芦名定道 :

『ティリッヒと弁証神学の挑戦』創文社。

「現代思想とキリスト論」、水垣渉・小高毅編『キリスト論論争史』2003年、日本キリスト教団出版局、pp.529-567。

1. Paul Ricoeur :

a. *La métaphor vive*, Seuil, 1975.

b. "Biblical Hermeneutics (*Semeia*. 4, the Society of Biblical Literature)," 1975, pp.27-148.

c. *Interpretation Theory: Discourse and the Surplus of Meaning*, The Texas Christian University Press, 1976.

d. "Listening to the Parables of Jesus," in: Charles E. Reagan, David Stewart(ed.), *The Philosophy of Paul Ricoeur. An Anthology of His Work*, Beacon Press, 1978.

2. Sallie McFague, *Models of God. Theology for an Ecological, Nuclear Age*, Fortress, 1987.

3. Paul Tillich, *Systematic Theology*, Vol.1-3, The University of Chicago Press, 1951/57/63.